の周波数帯域対応 内蔵型LTEアンテナ

のエレメント構成を採用しているため、実装条件において近接部品の影響を受けにくい。

エレメント部にチップコンデンサを実装することにより、帯域およびインピーダンスの微調整が可能な構成となっている。エレメント部へのチップコンデンサの実装について、パテント申請中。同社では今後、顧客が開発中の製品の構成に合わせ、カスタムでの開発を進めて行く。用途は、スマートフォン、タブレットPC、LTE対応端末など。

主な仕様は、外形寸法50

5以下。利得マイナス5dB·i以上。

デンカスチレン系シート製品値上げ

電気化学

電気化学工業は、「デンカスチレン系シート」製品の価格を、1日出荷分より20円/㌔以上値上げした。

原油価格上昇を背景としたナフサ・ベンゼン価格の高騰が続くなか、「デンカスチレン系シート」の主原料であるポリスチレンを供給するメーカー各社から、値上げを表。加えて、ユーティリティコストも上昇をしており、各種の合理化努力でも現行価格では安定供給と事業継続が困難であると判断したため。

と執念を持った行動を期待する③大きな人間、一流の

たい。

元気よくあいさつ

田淵電機・貝方士利浩社長　私たちは今、物質文明と精神文明の行き詰まりの時代を生きている。皆さんはバブル崩壊後の厳冬の時代を生き抜いた忍従、忍耐の世代。時代を変革し得る資質も、その主役となる資格も十分に持っている。元気よくあいさつする、良い

かすことができるかにかかっている。同期のつながりを大切にし、先輩、後輩と互いに高め合いながら、当社の未来を担う事業に挑戦し続けてほしい。

基本を愚直に実行

住友電気工業・松本正義社長　社員への年頭要望事項には、中期経営計画「12VISION達成へのラストスパートをかけよう」

分野では世界のだれにも負けないという、強い使命感、気持ち、情熱で仕事にチャレンジする③組織で仕事をする④安全と健康。私の体験に基づいた言葉「現場は宝の山、掘るも掘らぬも皆さんの腕次第」を贈る。

皆さんが活躍できる大きな舞台と、成長できるチャンスをたくさん用意している。伸び伸びと力を発揮し、チャレンジして幸せになってほしい。

してほしいことは①グンゼの精神、企業理念を受け継ぐ人財に②常に挑戦し、進歩する人財に③自発・自立型の人財に④グローバルに活躍する人財に——の4点だ。

顧客満足と企業価値向上を実現するためには、皆さんを含め全員が一丸となって変化に挑戦する必要がある。改革を成功させるには若さと活力、そして新しい発想にあふれる皆さんの力が、ぜひとも必要だ。

大和無線電器

餃子の王将に納入

太陽光照明システムや太陽電池駆動の屋外用LEDライトなど

大和無線電器（京都市右京区、公文雅人社長）は、餃子の王将に太陽光照明システム「スカイライトチューブ」、窓ガラスに塗布するだけで熱や紫外線を遮断できる「フミンコーティング」、太陽電池駆動の屋外用LEDライトを納入した。

新商材の開拓、販売に力を入れる大和無線電器が、エコ店舗づくりに取り組む餃子の王将に提案。2月18日に新規オープンした「餃子の王将梅津段町店」（京都市右京区、店舗面積約130平方㍍、客席28席）に納入した。

餃子の王将を展開する王将フードサービスで、エコ店舗づくりを担当する奥野耕平環境問題対策室長は「餃子の王将のエコ店舗づくりの切り口は、少ない電気を効率良く使う省電力だ。店舗で電気を使用する空調、照明、厨房の三つの省電力化をいかに進めるかが店舗の省電力化の成否を握る。さらに、電気を使わない店舗づくりにも取り組んでいる」という。

大阪・吹田春日、奈良・広陵、新潟、金沢などに続いて梅津段町店にも、この原理を利用して自分の体重で機械的に出入口ドアが開閉する自動ドアを採用。屋外照明には、太陽電池を電源とするLED照明を付けた。

スカイライトチューブは太陽光を独自の採光ドームレンズで集光し、特殊加工を施したダクトで屋内に取り込み、デフューザレンズで光を室内に拡散させ、照明として使う井之商（滋賀県大津市）のオリジナル品。餃子の王将も梅津段町店で初めて採用した。店内の待合コーナーの照明に使っている。

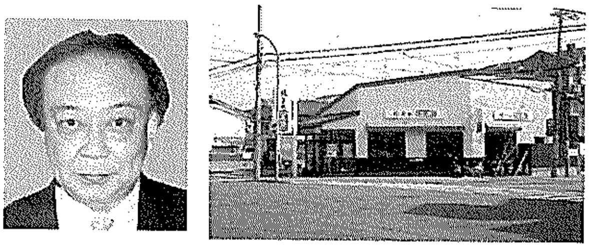
フミンコーティングは客席の外窓の外側全面を遮熱、遮蔽剤のフミンをコンプレッサで塗布した。一般店舗で外から7割の光が店舗に入り、うち4割はフミンコーティングで遮熱、遮蔽でき、窓に何もしない時と比べて25%の空調効果が得られるといわれている。

奥野室長は「夏のピーク電力を下げるには効率良い空調を実現することだ。電力料金の値上げ、夏の電力不足など厳しい電力事情と合わせて省エネ効果の高いスカイライトチューブ、フミンコーティングなどの新技術、新製品を今後の新規店、リニューアル店に積極的に採用していく」と話している。

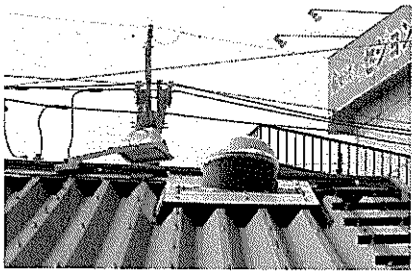
王将フードサービスは現在、直営店409店、FC店213店の計622店を全国に展開。12年度も直営店だけで50—60の出店を計画。既存店は5年前後で約1カ月半店を閉めて空調、照明、厨房を総入れ替えするリニューアルを実施するという店舗施策の中で、省電力、さらには電気を使わないエコ店舗づくりを強力に推進している。

生ビールで使う炭酸ガスを圧縮してドライアイスを作り、冷蔵庫、冷凍庫の保冷に使用するドライアイス製造装置を2月に宝ケ池店（京都市左京区）に実験導入。厨房の熱で発電する新たな取り組みも始めた。

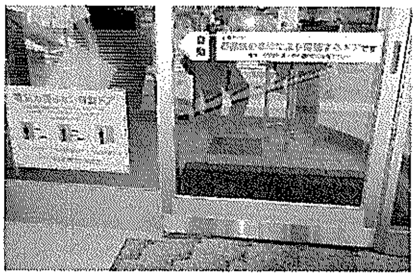
電子部品、弱電機器関連卸商社の大和無線電器も、餃子の王将と一緒になりエコ店舗づくりを考え、斬新なエコ提案を行っている。



王将フードサービスの奥野環境問題対策室長㊧と餃子の王将梅津段町店



餃子の王将梅津段町店の屋根に取り付けた採光ドームレンズ



電気を使わない出入り口自動ドア

〈翔け 若い力〉

用語解説

エネルギーハーベスト（エナジーハーベスト）

環境発電と訳される。自然界の様々なエネルギーから発電するシステムを指す。自然界からエネルギーを収穫（＝ハーベスト）するという意味合いから名付けられている。

発電に利用されるエネルギーは、太陽光のほか、室内光などを含めた「光」や「振動」「熱」「電波」などがある。振動で電気が発生する圧電素子などが発電素子として用いられる。

現在、河川水位や気温・室温などを監視するセンサー端末への応用が見込まれる。寿命のある電池なしにメンテナンスフリーで端末を運用できるなどの利点があるため。ほかにもボタン電池に代わる電源として様々な機器での応用も期待される。

ただ、各種発電素子からの発電量は極めて微細で不安定なため、電気を貯めるキャパシタや昇圧するデバイスなどが必要となる。そのため、高効率で発電する素子とともに、電気漏れの少ないキャパシタや電力損失の小さい昇圧用電源ICなどの開発が行われている。